

株主各位

東京都千代田区神田東松下町17番地
株式会社 **ラピーヌ**
代表取締役社長 佐々木ベジ

「第75回定時株主総会招集ご通知」[交付書面に記載しない事項]
の一部訂正について

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

2023年5月2日付で当社ウェブサイト及び東京証券取引所ウェブサイトに掲載しました「第75回定時株主総会招集ご通知」[交付書面に記載しない事項]の記載に一部誤りがございましたので、深くお詫び申し上げますとともに、下記のとおり訂正させていただきます。

敬 具

記

1. 訂正箇所

「第75回定時株主総会招集ご通知」[交付書面に記載しない事項]

連結注記表（会計方針の変更に関する注記）（金融商品に関する注記）（収益認識に関する注記）
個別注記表（会計方針の変更に関する注記）（関連当事者との取引に関する注記）

2. 訂正内容（訂正箇所は__を付しております。）
(訂正前)

連結注記表

（会計方針の変更に関する注記）

1. 収益認識に関する会計基準等の適用

・ 返品に係る収益認識

従来、売上総利益相当額に基づいて「流動負債」に計上していた「返品調整引当金」については、返品されると見込まれる商品及び製品の売上高及び売上原価相当額を除いた額を売上高及び売上原価として認識する方法に変更しております。これにより返品されると見込まれる商品及び製品の対価を返金負債として「流動負債」の「契約負債」に、返金負債の決済時に顧客から商品及び製品を回収する権利として認識した資産を返品資産として「流動資産」の「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示しております。

（金融商品に関する注記）

1. 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、設備投資計画等に照らして、必要な資金を銀行借入等により調達しております。また、短期的な運転資金については銀行借入等により調達しております。

受取手形及び売掛金に係る取引先の信用リスクに対しては、販売管理規程に従い、取引先ごとの残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を把握する体制としております。また、投資有価証券は主として株式であり、四半期ごとに時価の把握を行っております。

借入金の使途は運転資金(主として短期)及び設備投資資金(主として長期)であり、一部の長期借入金の金利変動リスクに対して金利スワップ取引を実施して支払利息の固定化を実施しております。

デリバティブ取引は、外貨建金銭債権・債務または外貨建予定取引に係る為替相場の変動によるリスクを回避する目的で為替予約取引及び通貨オプション取引を実施しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2023年2月28日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：千円)

	連結貸借対照表計上額	時 価	差 額
①現金及び預金	2,088,134	2,088,134	—
②受取手形、売掛金及び契約資産	246,466	246,466	—
③投資有価証券	316,501	316,501	—
資産計	2,651,101	2,651,101	—
④支払手形及び買掛金	188,115	188,115	—
⑤電子記録債務	12,344	12,344	—
⑥短期借入金	1,070,356	1,070,356	—
⑦長期借入金	730,000	720,386	△9,613
負債計	2,000,816	1,991,202	△9,613

(注) 金融商品の時価の算定方法及び有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

①現金及び預金、②受取手形、売掛金及び契約資産

これらは、短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから当該帳簿価額によっております。

③投資有価証券

投資有価証券の時価については、市場価格のあるものは取引所の価格によっております。また、市場価格のない「非上場株式」387千円については、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表には含めておりません。

④支払手形及び買掛金、⑤電子記録債務、⑥短期借入金

これらは、短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから当該帳簿価額によっております。

⑦長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

⑧差入保証金205,403千円は、主として不動産賃貸契約に係るものであり、その撤退の時期を見積もることが困難と認められることから上表には含めておりません。

(訂正前)

個別注記表

(会計方針の変更に関する注記)

1. 収益認識に関する会計基準等の適用

・返品に係る収益認識

従来、売上総利益相当額に基づいて「流動負債」に計上していた「返品調整引当金」については、返品されると見込まれる商品及び製品の売上高及び売上原価相当額を除いた額を売上高及び売上原価として認識する方法に変更しております。これにより返品されると見込まれる商品及び製品の対価を返金負債として「流動負債」の「契約負債」に、返金負債の決済時に顧客から商品及び製品を回収する権利として認識した資産を返品資産として「流動資産」の「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示しております。

(関連当事者との取引に関する注記)

(2) 役員

種類	会社等の名称	所在地	資本金 (千円)	事業の 内容	議決権の 所有(被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	フリージアハウス㈱(注1)	東京都千代田区	100,000	不動産の売買、仲介、賃貸、管理他	—	事務所の賃借	事務所の賃借(注2)賃借料	24,666	—	—
	フリージア不動産㈱(注3)	東京都千代田区	30,000	不動産の売買、仲介、賃貸、管理他	—	事務所の賃借	事務所の賃借(注2)賃借料	53,849	—	—
	㈱ホワイトルーム(注4)	東京都千代田区	10,000	衣料品(婦人服、紳士服)の製造及び販売	—	製品の仕入	製品の仕入	28,233	買掛金	26,207

(訂正後)

連結注記表

(会計方針の変更に関する注記)

1. 収益認識に関する会計基準等の適用

・返品に係る収益認識

従来、売上総利益相当額に基づいて「流動負債」に計上していた「返品調整引当金」については、返品されると見込まれる商品及び製品の売上高及び売上原価相当額を除いた額を売上高及び売上原価として認識する方法に変更しております。これにより返品されると見込まれる商品及び製品の対価を返金負債として「流動負債」の「その他」に、返金負債の決済時に顧客から商品及び製品を回収する権利として認識した資産を返品資産として「流動資産」の「その他」に含めて表示しております。

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、設備投資計画等に照らして、必要な資金を銀行借入等により調達しております。また、短期的な運転資金については銀行借入等により調達しております。

受取手形及び売掛金に係る取引先の信用リスクに対しては、販売管理規程に従い、取引先ごとの残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を把握する体制としております。また、投資有価証券は主として株式であり、四半期ごとに時価の把握を行っております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2023年2月28日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。また、現金及び預金、受取手形、売掛金及び契約資産、支払手形及び買掛金、電子記録債務、短期借入金については短期間で決済されるため、時価が帳簿価額に近似することから注記を省略しております。

(単位：千円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
①投資有価証券	316,501	316,501	—
②差入保証金	205,403	176,237	△29,165
資産計	521,904	492,738	△29,165
③長期借入金	730,000	720,386	△9,613
負債計	730,000	720,386	△9,613

※市場価格のない株式等は①投資有価証券に含まれておりません。

当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

(単位：千円)

区分	連結貸借対照表計上額
非上場株式	387

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

- (1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品
当連結会計年度（2023年2月28日）

（単位：千円）

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券	316,501	—	—	316,501
資産計	316,501	—	—	316,501

- (2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品
当連結会計年度（2023年2月28日）

（単位：千円）

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
差入保証金	—	176,237	—	176,237
資産計	—	176,237	—	176,237
長期借入金	—	720,386	—	720,386
負債計	—	720,386	—	720,386

（注）時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式及び国債は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

差入保証金

将来キャッシュ・フローを国債利回りで割引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

長期借入金

長期借入金の時価は、元利金の合計額と、当該債務の残存期間及び信用リスクを加味した利率を基に、割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

（収益認識に関する注記）

- (1) 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当連結会計年度（自 令和4年3月1日 至 令和5年2月28日）

（単位：千円）

	卸売事業	小売事業	福祉事業	計
顧客との契約から生じる収益	1,887,080	1,401,055	11,866	3,300,002
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客への売上高	1,887,080	1,401,055	11,866	3,300,002

- (2) 収益を理解するための基礎となる情報

「連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記 3. 会計方針に関する事項 (5) 収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

- (3) 当連結会計年度及び翌連結会計年度以降の収益の金額を理解するための情報

①契約資産及び契約負債の残高等

（単位：千円）

	卸売事業
顧客との契約から生じた債権（期首残高）	338,501
顧客との契約から生じた債権（期末残高）	246,466
契約負債（期首残高）	23,368
契約負債（期末残高）	22,418

契約負債は、カスタマー・ロイヤリティ・プログラムにより、会員の商品及び製品の購入に伴い付与したポイントの期末時点での残高に、将来の失効見込み等を考慮して算定された独立販売価格を基礎として取引価格に配分したものです。契約負債は収益の認識に伴い取り崩されます。

過去の期間に充足（又は部分的に充足）した履行義務から、当連結会計年度に認識した収益の額に重要性はありません。

②残存履行義務に配分した取引価格

当連結会計年度末で未充足（又は部分的に未充足）の履行義務は、22,418千円です。当該履行義務は、ポイントが使用または失効するにつれて概ね2年以内に収益を認識することを見込んでおります。

(訂正後)

個別注記表

(会計方針の変更に関する注記)

1. 収益認識に関する会計基準等の適用

・返品に係る収益認識

従来、売上総利益相当額に基づいて「流動負債」に計上していた「返品調整引当金」については、返品されると見込まれる商品及び製品の売上高及び売上原価相当額を除いた額を売上高及び売上原価として認識する方法に変更しております。これにより返品されると見込まれる商品及び製品の対価を返金負債として「流動負債」の「その他」に、返金負債の決済時に顧客から商品及び製品を回収する権利として認識した資産を返品資産として「流動資産」の「その他」に含めて表示しております。

(関連当事者との取引に関する注記)

(2) 役員

種類	会社等の名称	所在地	資本金 (千円)	事業の 内容	議決権の 所有(被所 有)割合	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	フリージアハウス(株) (注1)	東京都千代田区	100,000	不動産の売買、仲介、賃貸、管理他	—	事務所の賃借	事務所の賃借(注2)賃借料	24,666	—	—
	フリージア不動産(株) (注3)	東京都千代田区	30,000	不動産の売買、仲介、賃貸、管理他	—	事務所の賃借	事務所の賃借(注2)賃借料	53,849	—	—
	榊ホワイトルーム (注4)	東京都千代田区	10,000	衣料品(婦人服、紳士服)の製造及び販売	—	製品の仕入	製品の仕入	5,315	買掛金	26,207

以 上